

「自分の意見が通る、頑張れば評価されると分かったと、女性社員たちはどんどん能力を發揮してくれるようになった」。醸造機械メーカー・フジワラテクノアート（岡山市北区富吉）副社長の藤原加奈さん（48）が語る。

家業の後継者として副社長に就いた2015年以降、人事評価の見直しをはじめとする組織改革を断行。女性目線、母親目線で社員の働きがいの向上や働きやすい職場づくりを進めた手腕が注目を集め、地方企業が採用難に苦しむ中であって、入社希望者は大きく増えている。

今春、社内出張旅費制度の改善を手がけた入社5年目の荒木博子さん（38）も、前例や慣習にとらわれない社風を知って医療系企業から転職し、やる気と能力を發揮している一人だ。「前の職場は仕事柄ミスなく業務をこなすことを第一に求められたが、ここでは『何をしてもいい』と言われ、やりがいと責任を感じる」。旧制度を巡る現状調査から課題の洗い出し、改善策の提案と主体的に取り組み、係長に抜てきされている。

「荒木さんのように挑戦する女性社員がさらに増えれば、会社は確実に変わっていく」と話す藤原さんが目指すところは

## 第5部 ダイバーシティ ② 女性の結束

# 岡山「2.0」

人口減少の先に

# 職場変え、地域も変える

今、単なる「選ばれる企業」にとどまらない。

総務省の人口移動報告によると、外国人を含める現在の集計となった14年以降、岡山県は転

出者が転入者を上回る「転出超過」の状況が続いている。25年の転出超過は5594人（男性2571人、女性3023人）

で女性の流出が目立つ。性別役割分担意識のない仕事や企業を求めて首都圏などに移るケースが多いとみられ、男女問わず活躍できる職場を増やしていくことが求められている。

藤原さんが県内製造業の女性経営者らによる「県ものづくり女性中央会」に18年の発足当初から参画しているのも、そうした問題意識からだ。

20年から5年間は会長を務め、在任中の昨年2月には女性のワーカライフバランスを推進する行動宣言書を伊原木隆太知事に提出。家庭と仕事の両立やキャリア形成を支援し、働きやすさの実現を通して地域の魅力を高めるとアピールした。

24年には県内で活躍する女性の企業役員や管理職、大学関係者、専門職らと共に、任意団体「WePRO（ウィープロ）」を立ち上

藤原さん（右から3人目）をはじめ、岡山県内で活躍する女性の会社役員や専門職らが意見交換しながら職場や地域づくりを考える「WePRO」の定例会＝1日、岡山市内

げ、さらに幅広いネットワークを構築。「同じ志を持つ仲間が結束し、自分たちの声を発信していけば、多くの職場を変え、地域そのものを変える一歩になる」との思いが根底にある。

フジワラテクノアートは今年3月、本社屋の増改築に着手した。主力としてきた醸造機械の開発、製造に加え、培った発酵技術を活用したバイオ素材生産などの新事業を本格化させるためだ。現在167人の従業員を50人程度増やす計画で、売り上げの大幅増も打ち出している。

多様な人材が生き生きと働き、多様な強みを持つ企業に成長させていくことで、地域の魅力アップに貢献する。「そのことが自社にもさらなるプラスの効果をもたらすし、社員の幸せにつながる」。藤原さんはそんなビジョンを描いている。

「選ばれる企業」としての価値を高めてつづ、仲間と連携して「選ばれる岡山」に。その足取りは確かなものになってきた。（則武由）



連載へのご意見、ご感想をお寄せください。QRコードからも受け付けています。〒700-8534、山陽新聞社重点企画取材班。ファクス086-803-8125、メールkikaku26@sanyonews.jp

